

「現地を訪問して想うこと」

匿名希望 (2015・法)

東北応援ツアーの宮城コースに参加させて頂き、今回で2度目の被災地訪問です。1度目の訪問から気付くと1年が経過しており、関西に戻ってしばらくは現地の情報発信をしていたものの、次第にその機会は減っていき、自分自身の中でも風化が進んでいることに気付きました。そのような中で、偶然見かけた校友会の本プロジェクトのチラシを拝見し、参加することにしました。

東日本大震災から4年半が過ぎた現在も、復興は進んでいるとは言い難い状況でした。女川町は、JR女川駅が開通し、駅舎が新設されていて、復興までの一步を辿っている様子が伺えたものの、駅舎の展望台から周辺を見渡すと、鉄筋コンクリートの警察署やビルが倒壊している情景が広がり、震災の爪跡が残っていました。一方、閑上地区では草原が辺り一面に広がっており、ここで生活を営んでいた当時の様子と比較するといたたまれない思いで辛かったです。

「ささ圭」の経営者ご夫妻のお話は印象的でした。津波で工場も自宅も流され、廃業を目前とする中で、再建を決断し、試行錯誤をしつつも閑上復興に取り組む思いの強さを感じ、感銘を受けました。そのような思いが詰まった笹かまぼこはとてもおいしかったです。

まちが復興するにはまだまだ時間がかかるとは思いますが、震災に負けずに前に進んでいる人達のお姿を拝見し、復興の兆しも感じました。東北応援ツアーではありましたが、被災地の方々より元気を頂くことが多かったように思います。これからも被災された方々の思いを発信していくと共に、自分自身の中でも風化しないようにできる限り現地に赴きたいと思っています。この度はこのような貴重なご機会を頂き誠に有難うございました。